

へきけんニュース

ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学札幌校

令和4年度札幌校へき地校体験実習報告会について

北海道教育大学へき地教育アドバイザー 加藤 雅子

1 はじめに

10月28日(金)、今年度の「札幌校へき地校体験実習」事後指導・実習報告会が行われた。

コロナ禍は今年度も引き続き、一向に収まらない状態だったが、当初計画した13校で33名の学生が全員無事に実習を行うことができた。コロナはむしろ感染拡大を続けている時期だったが、昨年度、一昨年度のような延期や中止はなく予定通りに行われた。体調管理や、感染症対策などに対して、参加学生の意識も高まってきたこともあってか、体調面による不参加や実習中断は一件もなく、それが何よりであったと感じている。受入校や各教育委員会のご協力のもとより、関係各位のご理解やご支援をいただいたことに感謝申し上げたい。



加藤雅子アドバイザー

事後指導・実習報告会も主に対面で実施することができたが、今年度もZOOMを併用した。実習受入校にもZOOMでの参加を呼び掛け、数多くの実習校にご参加いただき、会の中でコメントも寄せていただくことができた。このことは学生にとって大きな励みになったようである。

2 今年度の実習校と発表の概要

今年度のへき地校体験実習は右表の通りで、洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校、黒松内町立白井川小学校、積丹町立美国小学校の3校では今年度から受け入れである。

従来からの受入校はもとより、新規受入校も各学校・教育委員会の非常に協力的なバックアップの下、へき地校体験実習の一番のネックである宿泊施設の確保を含めて、細かいところにも気を配っていただき、大変スムーズに実施させていただいた。ありがたい限りである。

報告会は、はじめにへき地・小規模校教育研究センターの川前あゆみ副センター長にご挨拶をいただき、前半7校、後半6校の計13校の発



川前あゆみ副センター長

表の後、川前副センター長と前田賢次准教授から講評をいただいた。また、当日、釧路校から参加した荒川浩一アドバイザーからも感想を伺うことができた。更に特筆しておきたいのは、この報告会に多くの受入校がZOOMでご参加くださったことと、その内2校の教頭先生からコメントをいただくことができたことである。最後に実習生全員に「へき地教育プログラム修了証」を手渡し、終了した。

令和4年度へき地校体験実習受入校と受入時期			
学校名	2年	4年	実施期間
利尻富士町立鷺泊小学校		3	9月12日(月)～9月16日(金)
猿払村立浅茅野小学校	2	1	9月6日(火)～9月9日(金)
三笠市立岡山小学校	2		8月29日(月)～9月2日(金)
三笠市立萱野中学校	3		8月29日(月)～9月2日(金)
日高町立日高小学校	1	1	9月12日(月)～9月16日(金)
日高町立日高中学校	2		9月6日(火)～9月9日(金)
蘭越町立昆布小学校	2		9月5日(月)～9月9日(金)
今金町立種川小学校		2	9月12日(月)～9月16日(金)
伊達市立大滝徳舜警学校	3		10月17日(月)～10月21日(金)
初山別村立初山別小学校	4		9月5日(月)～9月9日(金)
洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校		2	9月26日(月)～9月30日(金)
黒松内町立白井川小学校	2	1	9月6日(火)～9月10日(土)
積丹町立美国小学校	1	1	9月6日(火)～9月9日(金)
色付きは今年度からの実施校	22	11	計33名

◀ 本年度の実施校13校は左の表の通り。1校6分間という持ち時間の中で、工夫しながら発表する姿が観られた。

3 各校の発表より

今回の13校の発表の中で、複数の学校で共通して触れられていた内容をまとめてみたい。

教壇実習の充実 やってみたいわかる授業の面白さと難しさ！

今回特徴的だったことのひとつは、2年生の実習生の多くが教壇実習を体験することができたということである。中には3回も行うことができた学生もいて、充実ぶりが伺えた。体験実習ということで、観察中心で1週間過ごすだけでも貴重な体験ではあるが、教師の基本は授業であり、それを体験できるということは、たいへん大きな学びになることが、学生の報告を聞いてもよくわかる。短い期間の中で、指導して下さる担当の先生方の負担もある中、ありがたい限りである。

大滝徳舜警学校

教壇実習について

- ・小学1・2年生 算数 複式授業
- 1年生『たし算の かあと』
- 2年生『かけ算の九九』



- ・足し算のルールを自分で見つけられていた。
- ・2の段を用いる文章題の解き方を理解してくれた。
- ・1年生が一人なので気が緩んで「ちゃん」呼びしてしまった。
- ・2年生の時間がかなり余ってしまい、暇にさせてしまった。
- ・対応のための引き出しを多くしたい。

岡山小学校

教壇実習の練習について

- 5年算数 わり算と分数
- 4年算数 プラドレーのはいきゅうしよう

- ・指導案の作成方法
- ・授業時の声掛け
- ・板書の方法
- ・授業者としての教師の振る舞い



大滝徳舜警校と岡山小学校では、ともに2年生の実習生が教壇実習にチャレンジした。特に大滝では3回行った学生もいた。

美国小学校と白井川小学校では、4年生はもちろん、2年生も教壇に立つチャンスももらった。

美国小学校

教壇実習②③:

- ・対象：3年生8名
- ・内容：算数 10000より大きい数
- ・反省：習熟度のばらつきがあり、指導方法が難しかった。表を作成したり、色分けをして視覚的理解を促すなどの工夫が必要だったと思う。



白井川小学校

教壇実習

- 4年算数科 「垂直と平行」
- 5年算数科 「分数の大きささとたし算、ひき算」

- ・2年間の学習を同時に展開させていくことの難しさ
- ・児童の実態把握、時間の管理の大切さ



実習を通して学んだこと

複式学級での授業による学び、教師として子どもにできることを再考するきっかけ

複式学級での授業を体験させていたが、視野を広げ授業に学習を展開していく力や、授業を理解しようとする姿勢の大切さを学んだ。また、さまざまな困難を抱える児童、その子どもたちと過ごす先生方と出会い、教師として子どもたちができることについても改めて考えをきっかけになった。(R)

自己の態度と児童の反応の関係、小規模校の特色と活用

子どもたちと関わる時間を積み重ねる中で、通ってくる反応が、自分の教を強く意識、話す声調によって変化し始めることを実感とともに学んだ。また、小規模校での学校生活の特色、その活かし方について児童、教師双方の目線から理解することが出来た。(R)

小規模校の実態と工夫、授業をつくる上で大切なこと

小規模校のより実践、その困難を乗り越えるための工夫などを実際に見て学ぶことができた。教壇実習では担当実習が一人だったため、その授業のこころをしっかりと理解して授業づくりを行うことが大切だと学んだ。その他、自己の指導技術の課題も見つけることができた。(R)

少人数のよさを生かした子どもたちのとのふれあい

一人ひとりの子どもの関りを大切にし、児童生徒理解に努めることの重要性を感じている学生が多かった。

実習で学んだこと

- ・生徒に真摯に向き合うこと
- ・生徒が笑顔でいられるような学級運営をすること
- ・生徒第一の授業、生徒中心の授業
- ・学校運営という学校組織について
- ・学校運営要領の内容について理解し、授業に落とし込めるようになること。
- ・学校祭準備活動における教師の役割の仕方

日高中学校

学んだこと、感想

- ・初日から子どもたちが積極的に話しかけてくれたこと、全校児童の顔と名前を覚えることができたことで、自信を持って子どもたちと関わる事ができた。
- ・へき地校に実際に行ってみることで、より深くへき地教育について学ぶことができた。
- ・挑戦することの大切さを学んだ1週間であった。
- ・子どもたちひとりひとりに目を向けられている、という実感を持って過ごせたことが嬉しかった。

浅茅野小学校

2度目のへき地校体験実習 4年生11人中9人がリピーター

鷺泊小学校

- ☆実習期間 9月12日～16日
- ・授業観察（配属学級以外も）
- ・休み時間、給食、掃除等での児童との交流
- ・教壇実習
（研究授業 最終日 2年生算数
3年生国語
5年生国語）
- ・利尻島教育研究会への参加
（利尻小での授業見学、分科会への参加）




種川小学校

- 3.実習を通じて学んだこと
- ・児童一人ひとりに合わせた指導の大切さを改めて学んだ。活動の順番や内容を見童一人ずつに合わせて授業を進めることで、児童の得意分野を伸ばしたり、逆に苦手分野は学年内で補い合うなどの様子を見て、学ぶことができた。また、授業の進め方などはもちろんだが、登校時には、教職員ほぼ全員が玄関で児童を迎えるなど、小規模校ならではの教職員と児童の関わりについても学ぶことができた。

洞爺湖温泉小学校

教育実習で学んだこと



- ・学校が地域の中に入っていくことの大切さを学んだ。
- ・町や学校の規模に限らず、学校が積極的に地域の中に入っていくことが大切だということを学んだ。
- ・学校教育と地域をどのように繋げるかが大切
- ・教科的な教育内容に加えて地域教育・児童状況を踏まえた教育が必要であることを学んだ。

「もう一度行きたい!」と思っても、いざ4年生になると他の実習などで行けないことが多い中、これだけ多くの学生が日程をやりくりして参加したことは驚きであった。どの学生も、1度目の経験を踏まえ、実習で学ぼうとしている内容もレベルアップしていて、もうすぐ実際に教職に就くという心意気をもって取り組んでいた。できればこのように2年次と4年次の2回参加して自分の成長を感じながら、より高い目標にチャレンジできるのがベストだと思えた。

教職への意欲の高まり 都市部との比較による視野の広がり

へき地校体験実習による最大のメリットでもある「教職への意欲の高まり」は、今年度も多くの発表から窺うことができた。「『教師になりたい』と強く思うようになり、新たな目標ができた。」と話す学生も複数おり、例年の事ではあるが、小規模校で子どもと密に関わる良さが意欲の向上へとつながっていると思われる。また、札幌校は札幌など都市部の出身の学生が多く、自分の育った環境と比較することで、視野を広げることができたという発表も目立っていた。

日高小学校

実習を終えて

- ・初めて小規模校の学校生活の様子を見ることができ、自分の札幌での学校生活と比較して学ぶことができた。
- ・自分から積極的に行動し、様々な児童と交流することで充実した5日間にする事ができた。
- ・児童一人ひとりの個性を尊重し、個に応じた対応、指導をすることの大切さを実感した。
- ・先生方の研修に参加し、授業づくりの難しさややりがいを実感したので、今後の大学での学業をより意欲的に取り組んでいきたい。

たった5日間の滞在にもかかわらず、実習生通信や最後に手渡された子どもたちからの手紙からは温かな交流の様子が窺われ、改めてこの実習のいい意味での「濃さ」を感じる事ができた。良い実習であればあるほど、子どもたちとのみならず、教職員や地域の方々との濃い関わり合いこそが、学生の得難い経験となる。改めて「へき地校体験実習は密なんです!」と言いたい。(今年度の夏の甲子園大会優勝校仙台育英の須江監督の「青春ってすごく密なんです。」という言葉を拝借した。)

初山別小学校



ありがとうございます!!

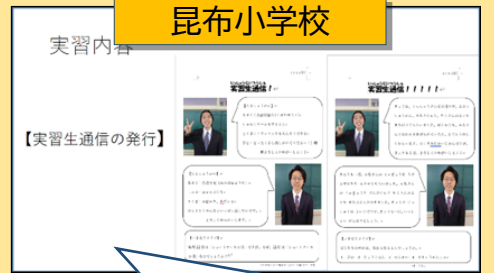
子どもたちから実習生へ、心のこもったお手紙

実習生だより



実習生通信も、ほとんどの学校で発行させてもらえた!

昆布小学校



【実習生通信の発行】

4 ご参加いただいた先生方より～人間的な更なる成長を願って

副センター長の川前先生からは「この実習をひとつのきっかけとして、出会った子どもたち、先生方、地域の皆様に何らかの形で恩返しができるように、これからも学び続けていって欲しい。」という言葉をいただいた。

続いて、釧路校から参加していただいた荒川アドバイザーから「今回実習に参加して、『自らの

身の丈を知ることができた。』という言葉が印象に残った。それによって次の一步が踏み出せるという、大変いい言葉として、釧路校の学生にも伝えたい。」と話していただき、へき地校体験実習では教職への足掛かりとなるだけでなく、人間的な成長にもつながっていくということに気付かせてもらい、多くの学生が頷きながら聴く姿が観られた。

日高中学校

実習を終えての感想

- ・今回実習に行き、自らの身の丈を知ることができた。
- ・多くの人々に尽力していただいたことに感謝したい。
- ・学校祭期間であり、普通の教育実習では体験できない貴重な経験ができた。
- ・実際に現場での授業を見ることができ、生徒の活動やそれに対する先生の動きを見ることで、授業の組み立て方・展開の方法について学ぶことができた。

また、今回はZOOMでご参加いただいた実習校が昨年に比べ倍増した。その中から、白井川小学校教頭の赤松先生と大滝徳舜警校前期課程教頭の立石先生より、感想と励ましの言葉をいただくことができたことも、学生にとって大きな励みになった。心より感謝したい。

締めくくりに、札幌校の前田賢次先生から「今回、たくさんの学びを授けてくれた実習先の学校や子どもに、皆さんが何を返せるのかを考えてほしい。皆さんは1週間の滞在だったが、実習先の子どもたちは今もへき地校での日常を毎日過ごしている。北海道にはこういう子どもたちがたくさんいる。そのことに思いを馳せながら、どういう教師になりたいか考えてほしい。」と講評していただいた。

最後に「へき地教育プログラム修了書」を一人一人に手渡し、今年度の報告会を終了した。



白井川小学校 赤松教頭



大滝徳舜警学校 立石教頭



最後まで真剣に



一人ずつ手渡す修了証

5 おわりに



今年度もコロナ禍が続き、常に対策が求められる状況であったが、すべて予定通り実施できたのは学校や教育委員会、地域の方々等のご協力のおかげであった。学生の学びの場を提供していただいた関係各位に、厚くお礼を申し上げたい。

(文責 加藤)

締切迫る!

へき地・小規模校教育推進講演会開催のお知らせ

へきけんニュース第115号でご案内した「へき地・小規模校教育推進講演会」は、**11月30日まで**申込受付中です。ご希望の方は、へき研センター公式サイト、下のバナー、またはQRコードからお申込みください。

ご参加をお待ちしております。

クリックしてお申込みフォームへ!

<https://www.hokkyodai.ac.jp/mail/76.html>



QRコードは
こちら!

